

## お詫び

編集部

柿崎さまよりこの会誌の編集を引き継ぎ、昨年で早、六号となりました。十一号より十六号です。私（萩原）は、今までも幾つかの変換ミスや単純ミスを繰り返していましたが、今回（十六号）はより大きなミスをおかし、書いて下さった方に実に不愉快な思いをさせ、申し訳なく思っております。編集者がしてはならない一番大きなミス、お粗末なミスである校正作業を怠ったことにあります。

筆者ならびに読んでいただいた方々に、心からお詫び申し上げ、遅蒔きながらここに誤り箇所、訂正版を載せさせて頂きます。今後、二度とこのようなことのないよう、務めて行く所存であります。

訂正箇所、訂正内容を下記に示します。

## 『新島八重さん』

十六号 104頁～105頁

十八回生 小木曾（名田）文子様著の『新島八重さん』の中で、次の誤りがありました。

\* 本文の最初の頁（104頁）、上段 9行目  
「旧九条河原町別邸」↓「旧九条家河原町別邸」に修正。

\* 同頁 上段 10行目  
「（現 京都府立鴨 高等学校）」  
↓「（現 京都府立鴨沂高等学校）」に修正。

\* 同頁 下段 10行目 最下段  
意味不明の数字 「5」↓消去

\* 105頁 上段 1行目  
「信仰の篤い」↓「信仰心の篤い」に修正。

\* 105頁 上段 16行目 最終文  
「（和田昌 故人）」↓「（和田昌允故人）」に修正。

## 『ヒー・ほんとう』（三）』

十六号 98頁～106頁

\* 「アメリカ、NYで遭遇した出来事」98頁

下段 最下段 中央

十八回生 片山章氏著の文章の中で、 unnecessary 数字 「1」

「ラ・ガーディ1ア空港」↓「ラ・ガーディ空港」  
同様のものが、105頁、106頁にも

## 『赤レンガの東京駅に三か月寝起き』

十六号 107頁

二十七回生 萩原直大氏著の

\* 108頁と109頁が逆になっている。

これは、印刷屋のミスではなく、本人のミス。

他にお気付きの点がありましたら、編集部へ

## おことわり

### 「敬称について」

編集部

第十七回の総会で、元内閣官房長官藤村修氏にスピーチして頂きました。その内容を今回の会誌に載せておりますが、その文章に付けた氏の肩書について、数人の方からご意見を頂きました。

\* この種の会誌では、肩書を付けないのが通例。  
元官房長官として挨拶をお願いしているのだから、以前の肩書としても付けないのは失礼。

失礼と感ぜられるかどうかはご本人しか分からないものの、失礼に当たらない方を選ばせて頂きました。今後については、この程度のことについては、編集部の適当な判断とさせて頂きたいと思えます。ご意見は伺いますのでお寄せ下さい。